第121回日本皮膚科学会総会
イブニングセミナー23

爪白癬は治せる時代

―皮膚科医として完全治癒を目指す―

日 時

2022年6月4日(土)
16:55～17:55

会 場

国立京都国際会館
第4会場(2F Room B-1)
京都市左京区宝ヶ池

本セミナーはライブ配信も実施します。
詳細は「第121回日本皮膚科学会総会ホームページ(https://jda121.jp)」よりご確認ください。

座長 宮地 良樹先生 (京都大学 名誉教授 静岡社会健康医学大学院大学 学長)

講演1 ホスラブコナゾールによる爪白癬治療
―完全治癒を目指すために―
下山 陽也先生 (帝京大学医学部附属溝口病院 皮膚科 助教)

講演2 爪白癬治療の最前線
～ホスラブコナゾールの
多機関共同後ろ向き観察研究結果を含めて～
仲 弥先生 (仲皮フ科クリニック 院長)

共催:第121回日本皮膚科学会総会／佐藤製薬株式会社／エーザイ株式会社

講演 1

ホスラブコナゾールによる爪白癬治療
―完全治癒を目指すために―

下山 陽也 先生（帝京大学医学部附属溝口病院 皮膚科 助教）

当院で解析した109例のホスラブコナゾール内服治療成績では、初診時の爪甲混濁部面積比が0～25%の患者の完全治癒率は83.3%(15/18例)、完全治癒に至るまでの期間は28.5(±12.7)週だった。一方、爪甲混濁部面積比が76～100%の患者では各38.5%(5/13例)、42.8(±16.0)週だった。重症例でも治癒を目指せることが分かったが、重症化する前にホスラブコナゾールによる治療を開始することで、より多くの患者が爪白癬完全治癒を目指せるのではないか。しかし、12週内服終了時には、まだ完全治癒達成率が高くないことには注意が必要である。内服終了＝治療終了ではなく、内服終了後こそ、健康な爪の伸長を観察し爪切り処置などの丁寧な診療が重要である。本講演では、多くの患者が爪白癬完全治癒を目指した過程を供覧し、その意義について考えたい。

講演 2

爪白癬治療の最前線
～ホスラブコナゾールの多機関共同後ろ向き観察研究結果を含めて～

仲 弥 先生（仲皮フ科クリニック 院長）

爪白癬は日本人の10人に1人が罹患しているとされており、日常診療でよく診る疾患である。外用抗真菌薬2剤、経口抗真菌薬３剤と、治療選択肢が増えた今、完全治癒を目指した薬剤選択が強く求められている。また、長期治療が必要な爪白癬治療ではアドヒアランスを良好に保つ必要があり、投与方法が簡便であることも重要となる。2018年7月に新規アゾール系抗真菌薬であるホスラブコナゾールL-リシンエタノール付加物(ホスラブコナゾール)が経口薬として実臨床下で使用可能となったが、ホスラブコナゾールの有効性、安全性、治療継続率等を検討したエビデンスは十分とはいえない。そこでこの度、爪白癬の診療経験が豊富な先生方とともに市販後初となる多機関共同後ろ向き観察研究を実施した。本研究では、リアルワールドにおけるホスラブコナゾールの有効性、安全性、治療継続率等を検討したので、その結果を含め報告する。